

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 22 日

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	朝比奈 剛
研究課題	社会的課題の解決とSDGs、ソーシャル・ビジネス、CSV				
研究キーワード	貧困、格差、SDGs、ソーシャル・ビジネスなど	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	1. 貧困をなくそう	10. 人や国の不平等をなくそう	12. つくる責任 つかう責任	15. 陸の豊かさを守ろう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>下記の間人社会学部のテキスト（第2版）では、持続可能な社会・経済・生活を目指すトレンドの背景には、現在の私たちの社会・経済・生活が、自然・環境との関係でも、支え合う社会との関係でも、もはや持続不可能となっている実態があること論じた。</p> <p>どのように、なぜ、持続が不可能になってきたのか？を確認するために、現代社会における格差の拡大＝社会の分断、環境破壊とその背景の一部の人々の過剰な豊かさを確認した。さらに、人、社会、自然・環境の関係を、資本主義の発展とのかかわりの中で考察するために、ミル、マルクス、ケインズ、ボールディングといった経済学者の分析を学説史的に概観し、さらに、『沈黙の春』、『成長の限界』などの重要な文献が、人、社会、自然・環境の関係をどのように論じていたのかも概観した。そうした思想的な営みの中から、SDやSDGsといった概念が登場してきたことを論じた。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>千葉商科大学人間社会学部(編)『はじめての間人社会学～現代社会とSDGs～ 第2版』(中央経済社 2023年4月25日発行)の「はじめに」、「序章 現代の間人社会学とSDGs」、「第10章 人間社会学と経済・経済学」</p> <p>【学会発表等】</p> <p>3. 主な経費</p> <p>研究活動のために、文具やPC用品などを購入したが、大きな支出は無し</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p style="text-align: right;">(本文は2ページ以内にまとめること)</p>					